

令和4年度 第2回旭川市社会教育委員会議 議事録

日時	令和4年7月26日（火）午後6時30分～8時30分
場所	旭川市神楽公民館 講座室
出席者（委員）	岩永委員，大橋委員，工藤委員，佐藤委員，佐野委員， 三条委員，清水委員，鈴木委員，中村委員，猫山委員， 濱中委員，森峰委員
出席者（職員）	高田社会教育部長，谷口社会教育部次長，岩崎社会教育部次長， 高桑文化振興課長，松里文化ホール担当課長，石原博物館長， 小島社会教育課主幹，中山中央図書館主幹，中田科学館主幹， 川瀬社会教育課主査，伊藤社会教育課職員
公開・非公開の別	公開
傍聴者	なし
会議資料	第2回会議次第 資料1 旭川市社会教育基本計画 令和4年度 点検・評価 資料2 旭川市社会教育基本計画の中間見直しについて 資料3 旭川市民文化会館の整備の方向性検討体制とスケジュール

会議要旨

1 開会

2 社会教育部長挨拶

3 議事

(1) 旭川市社会教育基本計画 令和4年度 点検・評価について

議長	はじめに，旭川市社会教育基本計画 令和4年度 点検・評価 について，事務局から説明してください。
事務局	（資料1に基づき説明）
議長	ただ今説明がありましたが，まず基本目標1について何か質 問・意見はありませんか。
委員	35ページの2のところに，「身の周りや地球規模での資源・ 環境問題への理解の促進」とありますが，ここでいう出前授業 や公民館での講座，ツアーとは具体的にどういったものです か。
社会教育課長	上川管内で，大雪カムイミンタラジオパーク構想というもの を実施しており，その事業でツアーを実施しました。
議長	例えば，ツアーの対象者，参加者や時期についても説明をし

	てもらえれば。
社会教育課長	ジオパーク構想については、上川管内の市町村で実施しているもので、公民館での出前授業は、例えば愛別町の公民館で実施したり、ジオパークの会の方たちと一緒に上川管内でジオパークをめぐるツアーを実施しており、昨年度については、旭川でジオパークに取り組んでいる場所は神居古潭になるのですが、そこでのツアーや、ミニ講座を実施したところです。
委員	出かけていくということですか。
社会教育課長	出かけていくものもありますし、座学もあります。
議長	39 ページに、事業やイベントをオンラインや人数を制限して実施するなど、オンラインによる事業を実施したという標記があるのですが、具体的にどのような事業だったのか。また、オンラインというのはおそらくコロナ禍になってからだと思うのですが、もし一般市民がオンラインを通して、どのような感想であるとか手ごたえ、評価をしていたか聞かせてほしい。
社会教育課長	<p>オンラインについては、まず成人式についてオンラインでその様子を映すことができ、事情により参加できなかった方もいると思いますが、そういった二十歳の方々や家族が式典を見ることが可能になりました。</p> <p>次に、2月に実施した生涯学習フェアについて、講演会を会場とオンライン配信のハイブリッド形式で行いました。講師には東京やフランスの方もおり、また、東京などの離れたところからの参加者もいました。講演の中では、講師のお天気キャスターの方が、札幌からリアルタイムで札幌と旭川の様子を比較するといったこともできました。</p>
委員	34 ページの成果指標2について、参加者への満足度というのが成果指標になっているようですが、こういった形でこの満足度を把握しているのかお聞きしたい。
公民館事業課長	公民館講座について、講座終了時にアンケートを取っています。その際に、この講座に対してどうであったかということをお聞きしたい形です。
委員	昨年度の実績について、参加者からのアンケート等に基づいて、今回の計画をまとめられたということですが、学識経験者からアンケートの使い方についての意見はありましたか。もしあれば教えてください。
社会教育課長	学識経験者の意見では、アンケートについて具体的なものは

	<p>なかったですが、市民の学習ニーズの部分やどんなことについて事業を実施していくと良いかといったことでの細かな指摘はありました。</p>
<p>委員</p>	<p>私が一通り目を通してまず気になったのは、アンケートの数値の結果、数値を量的に測って、今後の課題があげられている。そこからさらに行動目標というか、指標を設定するという、いわゆる事後評価のような印象を持っています。</p> <p>その事後評価からまたさらに次の新年度の計画というのは、まさしく PDCA サイクルで、次の事業の計画に続けるということになるかと思うのですが、学識経験者の指摘もすごく要約してしまうと、この結果からの分析が必要ではないかと言っているように私は思っています。</p> <p>今は事後評価というよりも、現在の学校評価では定性的評価という言い方をしています。事後評価をさらに実態に即して進めていくのは、モニタリングというものだと思うのですが、モニタリングにさらに分析が上乘せされると定性的評価となります。すでに社会教育の各施設がそれぞれの事業目標や理念で運営されていると思います。そうするとこの評価の在り方が、ここで指摘されている統一のスキームで評価するというように少し見えています。</p> <p>話を戻すと、それぞれ分析されているのですが、もう少し深く分析をした方が、今度の基本計画も見やすいのかなと思っています。</p> <p>定性的評価のメリットは、それぞれの施設の実態にあった結果と、自分たちの方向性により独自性が出やすいところだと思います。具体的にどこかという、やはりアンケートの実数だけで推察しているような印象を受けます。例えば、修正案は削除がほとんどなく、追加されている修正案という理解でよいですか。最初の前半の方しか見ていないので、その部分だと、今指摘のあった受講者数や、成果指標 1 だと人数を対象にしていますが、その時、年代を一緒に取っていると思うのです。そういうものでクロス集計していくと、その世代の利用率というのも世代間に関するものだと思うので、さらに分析が詳しくできます。その年代の受講が少ないのはどうしてかといったところから基本計画にしていった方が、市の抱えている事情とこれからの課題がマッチしていくのかなと思います。</p>

社会教育課長	<p>先ほど冒頭でも話をしましたが、そういった部分も含めて、この社会教育基本計画を作った時には、定数評価であるアウトプットだけが指標として載っているところが多いので、その部分も含めて今年度見直しをするときに、アウトカムについても何がどういう風に変容したかという部分についても考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>もう一つ、ICTの利活用のことですが、事業の中身を見ると、パソコン利用といったことが書かれていて、どちらかというとICTよりIT関係の内容が多いと思っています。「C」はやはりコミュニケーションなので、地域の交流というか、この後の基本計画の見直しの方に関わってくると思うが、「C」の部分の強調をあわせてお願いしたいと思いました。</p>
社会教育課長	<p>これまでは、パソコン講座というような形でITを活用するというだけでしたが、今後に向けては、地域をつなげる人づくりを、社会教育でやっていきたいと考えています。</p>
議長	<p>今は小学生から授業でiPad等を使って、時代は我々が考える以上に違う進み方をしているような気がします。私は今の最先端の、これからのネット社会の未来もわかりませんが、VRとか仮想空間とか、そういうものをつないで、例えば文化の交流をしていくとか、無限に色々なことが広がっていくのかなと思います。そういったことに対しても、もし攻めることができるのなら面白いと思うのです。</p> <p>修学旅行のバスが、eスポーツの会場につながり、高校生や中学生が昔の映画館のところにどンドン入っていくのを見てびっくりしました。旭川にはこういった強みもあるんだと。そういうことから考えると、旭川市の可能性を考えるひとつのきっかけになるかもしれませんね。</p>
委員	<p>かなり昔、まだ若かったので、講座を企画していた頃に、人数が集まるか、どのぐらい来るだろうかということに一喜一憂した時もありました。今は、自分がどこに行こうか、こんなものがあつたらと思いながら広報誌を見ているのですが、だんだん少なくなっていくことと、やはり人数ではなく、満足度といったところもすごく大事なと。自分が参加してつくづく思うのですが、そういう中でコロナがあると言いながらも、全て人だなと感じるんですね。コミュニケーションも含めますが、基本は人だなと。</p>

	<p>世代間交流にしても何にしても、やはり好意的だからこそ、コミュニケーションが一番薄れてストレスが溜まってきている時代だと思うので、アウトドアとか、人と人がお金をかけるのではなくて伝えていくとか、色々な昔の遊びでもいいですし、色々なことを次の人とシェアして経験したり、挑戦したり、広がるようなソフトの面の充実というか、すごく大事なハード等、機械等も発達していますけれども、ここにはやはり人というのが一番忘れてはいけないことだなと思っています。そういうことを大事にすれば、達成率など色々なこともより深く、根強く地域の色々な人との結びつきが濃くなると思います。つながっていくようなそういったことを大事にしていくべきではないかと最近よく思っています。</p>
議長	<p>そのほかなければ、基本目標2の方に移ります。 質問や意見はありませんか。</p>
委員	<p>成果指標2の部分で、社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合ということですが、こういった方を対象に調査をされたのか聞かせてください。</p>
公民館事業課長	<p>公民館利用者を対象としたアンケートになります。</p>
委員	<p>目標指標は66.1%で、かなり細かい数字となっていますが、設定した根拠は何でしょうか。この数字が達成できれば市民が学習しやすい環境が整備されたという認識ということになるのでしょうか。個人的には、利用者にアンケートを取って70.1%ではどうなのかと思いました。</p>
議長	<p>こういってもこれから色々議論していかないといけないところかもしれません。 どこに目標値を置いて取り組んでいくのかということ、なかなか難しいですね。これが全てというところがなかなか導き出しにくい。おそらく、前回よりも少しでも上のところという意味を置きながら、努力していくということで設定したと思いますが、それが本当に、利用者にとってその数値が良いのかとなると違った観点が考えられますけれども。この辺りも皆さんの意見を聞いていかないといけないなど。</p>
委員	<p>今の意見に関して、利用頻度を取れば利用しやすいとなるのかなと思います。リピーター、何回も利用される所は何かしらその目的があって、利用しやすいからもう1回来られるわけですね。</p>

議長	<p>リピート率という言葉が出ました。これも議事の2に関わっていくような、満足度を測る一つの評価観点につながるのかなと思います。</p>
委員	<p>利用しやすいかどうかは、非常に漠然とした意味ですが、まず一つは、施設の建物、設備など利用しやすい建物になっているかどうかということも含まれると思います。それから立地条件、施設の場所ですね。それから、例えば、図書館ならば見たい本を検索できる、そういった機能がどこまであるのかといったこともあります。</p> <p>公民館、地区センター、住民センターなどがありますが、全て洋式のトイレでない場所もありますし、利用しやすいかと漠然と聞かれたら、開館時間、休館日という諸々の条件が自分に合っているかどうか、そういったことでも違ってくると思います。ですから、この成果指標2は、単に利用しやすいと感じるかと言われた時は、非常に色々な要素で利用しやすいと思う人、もしくはそうではない人、これは難しいと思います。</p> <p>もっと具体的なもので問いかけた結果がこうだということなら分かるのですが、これだとどれか一つ、自分の生活サイクルに合わないものがあれば、利用しづらいとなると思います。</p>
議長	<p>これも議事の2に関わりますね。</p> <p>評価は本当に難しい。かと言って利用者に事細かにアンケートするということができません。</p> <p>さあ、どのようにしたら良いかということが、次の議事2のときに知恵を出し合いたいと思います。</p> <p>他になければ先に進みます。「基本目標3 地域における学びの循環」、ここに関して質問ご意見ありましたら出してください。</p>
委員	<p>生涯学習フェアについて、学習成果を還元する教育を行うなどということで、主体的な参加ができるような趣旨が書かれていると思いますが、昨年までのことが分かっていないので教えてください。今までもやっていた部分もあると思うのですが、運営など、今後具体的にどのような形でという今時点での構想があれば参考に教えてください。</p>
社会教育課長	<p>生涯学習フェアは、昨年度に第30回を実施し、30年間続いてきました。特に公民館のサークルや、民間団体の方々が発表する機会として、毎年、年1回、文化会館でステージ発表や作</p>

	<p>品展示、様々な体験活動などを行ってきました。そして、コロナの影響で縮小しましたが、昨年度、第30回記念ということで、市民の方からなる実行委員会が、ハイブリッド形式で記念講演会を実施しました。</p> <p>参加団体の中には、一番最初から企画に参加したいという方もいますので、どのようなことで、自分たちが生涯学習フェアに携われるかということ、企画の段階から話し合いながらやっていくということを実施していきたいと考えています。昨年もありましたが、PRのために参加団体の方が生涯学習フェアのポスターを描くといった取組をしました。コロナの影響でステージ発表はできませんでしたが、講演会は、実行委員会で行うことができました。我々の考え方としては、この実行委員会形式をさらに進めていながら、市民との協働の中で、参画していただいた市民の方が、自分達で行えるような生涯学習フェアとして発展させていきたいと考えています。</p>
議長	基本目標4, 5について何か質問・意見はありませんか。
委員	<p>アウトカムについて、例えば、基本目標が郷土愛の育成になっていますよね。市民1人1人に郷土愛がどのように育成されたかを見取ることは難しいですよ。でも、こういう施策を取って様々な行為をした時に、市民がどうなっているかを見取らなくては行けない。だから、私もこれをどうしたら良いのか、まだちょっと見えていませんが、そういうことを一つ一つ、市民の姿とタイアップさせて、このように見取る、見取れなくてもその見取る方法、見取る視点を整理していけば、すごく良い活動になるのではないかなと。</p> <p>もちろん、世の中が数値ばかりで、それは客観的な判断の指標になりますが、私は果たしてその数字というのはパーセントに拘るのが良いのではなくて、大事なのはこうしようという施策だから、それとの比較ですね。まあ70%ぐらい、でも内容によっては30%で達成したんじゃないかみたいなものがあるのも良いのではと思います。極端にコロナでそうなっているのかもしれない。</p> <p>ですから数字よりも、その数字に達成しなかった理由、何故達成しなかったのかということ、そして、達成するために、こういうことを政策で行おうというのが明らかになれば、その数値よりも今ある現状をどう捉えて、どのように生かして</p>

	<p>いくかという視点を持っていくべきかなと。</p> <p>それで、見直しということで出てきた評価指標の観点。先ほど言われた「活用しやすい」ということは何かを言われましたが、「活用しやすい」という文言は適当なのか。結局そういったあたりも見直していけば、目標と評価というのが一致した形で、先の見通しもどんどんできてくるのではないかとそんな気がしました。</p>
--	--

(2) 旭川市社会教育基本計画の中間見直しについて

議長	旭川市社会教育基本計画の中間見直しについて、事務局から説明してください。
事務局	(資料2に基づき説明)
議長	<p>今、事務局から説明がありましたが、私も最初にこれを見たときにそもそもよく分からない、言葉の理解からと。それで今回、もう少し分かりやすく説明してくれないかということをお願いをしました。</p> <p>このことについて、副議長の意見を求めたいと思います。</p>
副議長	<p>まずそもそも、今のアウトカム評価を取り入れるに当たって、何のための評価なのかについて議論されたのがひとつです。つまり、計画は当時、しっかり先を見通した中で作られたものだと思っていて、その指標についても具体的にそこで設定されたものだったと。何か足りなくて途中で改善するというものに対して私がとやかく言う、行政としてとやかく言うところではないのですが、ただアウトカム評価を取り入れるということになると、かなり大変な作業になってきますし、行政として論点がずれる可能性が出てくる危険性もあるのではないかと感じました。</p> <p>国研で平成25年か26年ぐらいに、このアウトプットとアウトカムの評価についてはかなり議論をして、社会教育でどのように取り入れていけるかということも議論されたと承知していますが、そこではっきりとした答えは出ていなくて、答申の中で少し触れられる程度の中身でした。それを市の行政のこの中で議論をして、独任制の社会教育委員の中でこの方向性でというのがかなり難しい内容になっていくので、もう少し絞っていただけないかなと。率直な感想ですが、そんな気がして受け止めております。</p> <p>また、先ほどの昨年の様々な評価ですが、社会教育自体がそ</p>

	<p>もそもどういものなのかであるとか、社会教育委員のこの会議自体がどうい場なのかというところも、もしかしたら前回整理されたのかもしれませんが、行政が行った評価に対して我々独任制の委員が、それぞれの立場で意見を言わせていただく、そういう場だと私は認識しているので、様々な意見が先ほどもたくさん出ましたが、それらをしっかり踏まえながら取組を進めていただければと思っています。</p>
社会教育課主幹	<p>1つは昨年度、社会教育委員会議で評価の見直しについて指摘を受けていたという部分が最初のスタートです。先ほど説明しましたが、成果目標で、各段階で解決できるように、と目指す姿が書いてありますが、その目指す姿に近づいているかどうかという評価が一切できていない。それに対して達成したかどうかということが分からない状況の作りになっているのではないだろうか、ということを考えていました。ですので、確かにその全てのものをアウトカムでやることは難しいとは思いますが、今の形では何をやったしかないで、それだけではなく、成果目標に載せているものだけでもきちんとした指標と言いますか、取れるものについては取る方向を考えていかないと、この成果目標を達成できたかが分からないということが、スタートの論点と考えております。</p> <p>それと、社会教育委員会議がどのような場であるかという指摘はその通りだと思います。確かに今は丸投げのようになっている部分があるかと思えます。今考えていることは、先ほどの話の続きだと思っていますが、こここのところはこのように、もう少し詳しく取った方がよいのではないかと、目標を見てこの目標であればこういうことが必要ではないか、というご意見をこの場ではいただければと思っています。それを元に、こちらの方で素案を作り、皆さんに提示させていただき、次の会議で社会教育委員の意見をいただくことにできればと思っています。</p>
議長	<p>少し理解していただけたかなと思いますが、何かご意見ご質問ありませんか。</p>
委員	<p>今の説明で大変よくわかりました。</p> <p>目標を掲げている以上は、目標が確実に達成されているということはどういうことなのかということや、検証しないと物事は進んでいかないということからの評価だと私も思います。</p>

例えば、成果目標が今までバラバラだったという印象を持っていました。望ましい市民の姿が先に来て、後から行政との取組という形です。それは、今までの成果目標はその当たりが整理されていないことは私も分かっている、こうしたら良いなと思ったら、やられてしまいました。こういう形にすると、アウトプットの方の、社会教育のやる側の方の取組や指標はあまりいじらなくても済むということで、すごく合理的で良いと思います。

定性的評価の話が出ていましたが、気をつけなくてはいけないのは、できているとか解決しているという言葉ではなくて、「解決しようとしている」というような、定性的評価にふさわしい形を並べていくことが大事かなということをも思っていて、今日提出するものを書いていました。

あともう一つ、社会教育基本計画の点検・評価にかかる目標評価、これも分かりやすくまとめられていると思いますので、言いたいことを2つ言います。まず一つは、アウトカムにすると、何でもかんでもアンケートを取ろうとする主義にならないことです。市民の満足度と言っていました、何でもアンケートとするのではなくて。アンケートも必要ですが、例えば公民館活動でも、様々な事業をする時に、社会教育の皆さんが関わる中で、市民の様子を見取る観点だけを明確にしておく。印象でよいと思うんです。だから、今ピンとこないのですが、郷土愛についてこういう発言があったとか、このような講座をやってくれませんかとか誰かに言ったとか、そういうものがきっと郷土愛に結びついてるというような感じでやっていく。自分で郷土愛を持っていたと思いますか、というアンケートにしてしまうとみんな困ってしまいますから。そんなふうに見る観点を行政として執行する一人一人、例えば、公民館の活動だと専門指導員一人一人が、そんなふうにできれば、おそらくそんなに固く考えなくても、市民のこんな様子が見られたという見取りを組み立てていけば、かなり点検・評価の深まりが出るのではないのでしょうか。これは本当に郷土愛だったのですかと言われた時にも、市民の具体的な姿をこういうふうになりましたと見取る側がやることで評価できるのではないかということです。何でもアンケートにならずに、執行する側が見取りの観点を持って、社会教育の様々な事業の中でも整理統合することによって

	<p>かなり変わってくるのではないかなと。</p> <p>それと2つ目。今、出されたこの基本方針の記入例で、こんな感じにするというのが社会教育委員の皆さんも大体分かるし、どのような目標でやろうとしているかというのも、今見れば恐らくお分かりになると思いますので、具体的な文言は、事務局の方で作ってもらって、それを我々が見て、承認する方が良いのではないかと考えています。</p> <p>アンケートをあまりやらないような施策が必要かなというので、見取りの方向性というか、観点をたくさん見てやったらいいなということと、我々が社会教育委員として携わるとすると、社会教育基本計画の点検・評価の目標というのはこういう形で進めたら良いという共通理解と、具体的にはこんな形で評価観点として、指標などポイントを出されてくるということを見て、ああいいですねというように共通理解できるような形で進めていただければと思っています。</p>
委員	<p>先ほど、基本目標1のところで発言したことの繰り返しになってしまうと思いますが、今、他の委員から提案いただいたことは「印象」なので、また今回、これから今検討しているところで反映できる部分はどれだけあるのか、ちょっと私は分からないので、今、我々が扱える資料ですとかデータですとか、それらに限って言えば、私が話したことの要点としては、今あるアンケートや調査の結果をもう少し分析していただいて、今、旭川市の社会教育の実情というか、市民の方の実態をもう少し詳しく深く分析していただいて、アウトカム評価に移行する時に説得力が増すのかなと思います。</p> <p>行動目標というか、ポリシーが掲げられていますが、それが今の実情とどれくらい間隔、距離があると思うのかというのが、多分、我々の中で合意形成できてないと思います。ですから、アウトカム評価について意見をと言われても、なかなか意見しづらい部分なのかなということで、具体的に言うと、例えばボランティアの部分でいくと、課題や今後の対策のところで、高齢化という言葉が多く見られたと思います。そのボランティアの世代構成と言いますか、それを言葉だけで高齢化と言われても、どぐらいのボランティアの規模で、どういう年齢構成になっているかという実情が見えづらいところがあるので、可能な範囲で、合わせて世代の質問項目があれば、単純集計で</p>

	<p>はなくクロス集計してもらい、例えばご高齢の方が多くて、若い世代が少ないのであれば、その実態に合わせて、どういう行動目標を立てていくかにつながっていくと思う。現状を扱えるところで考えていく方向としては、先ほどの考えと少し対立してしまうかもしれませんが、そこをうまくハイブリッドに使って進めていただければと思っています。</p>
議長	<p>意見をまとめると、シートは作成してもらい、社会教育委員会の中で、文言を見て、それから意見を出し合う形が良いのではないかと。その際には、シートの中に明確に変えたところの基本的なデータも出せる範囲で出してもらうのが良いのではないかと。</p> <p>それと私からは、せっかく今回こうやって用意していただいたので、今回の会議でそういうことかと分かった方もいますし、先ほどの議事1の中でも、例えばリピーターというのは1つの評価の観点になるのではないかと、そういう言葉もありました。ですから、細かいところまで作り上げるのではなくて、例えば、この指標の見取りについてはこんなことでいいんじゃないだろうかとか、こんな方法もあるんじゃないだろうかという、本当に簡単なメモ程度でも書いていただければ。今回は意見を出さなかったけれども、改めて見て見た時に、私もちょっと書いてきたのですが、リユース、リピーターの数だとかっていうのも書いてみました。ネットのアクセス数なんか、そういうものは読み取ることができないだろうかとか、ホームページのアクセス数とか。そんなことも含めて、市P連でも研修会の時に簡単なアンケートなどをしていただくとか、あまり難しくなく、思いついて書けるものがあれば書いて出していただくという、それぐらいでもよろしいですか。</p>
社会教育課主幹	<p>構いません。気づいた点とか気になった点をご指摘いただければ、それらを元にこちらで次回提案させていただきたいと思っています。</p>
議長	<p>出してもいい、出さなくてもいい、書き方も難しく考えなくてもいい。その代わりに、事務局から出されたものについては、ちょっと余裕を持って出していただいて、しっかり見てしっかり意見を出し合うという形にしたいなと思います。よろしいですか。</p>
副議長	<p>要望があります。</p>

	<p>全ての目指す姿というのがあって、一人一人が生涯に渡って学び続け、その成果を社会に生かすことを目標、目指すということですね。そして例えば、基本目標1の部分で言うと、例えば、学びに関する情報提供、学習機会の充実ということによって各段階で直面する課題、社会的な課題を解決できる、それによって一人一人が生涯にわたって学び続け、その成果を社会に生かすことを目指す、生かすことができるという風なロジックだと思うのですが、各段階で直面する課題を、課題や社会的な課題を解決できるというのはどういう姿なのかというのが具体的に分からないですね。もう少し具体になるようなものがあって、そういう姿になっているかどうかというのを、アンケートでやるのか、理事者側が読み取るかは別として。そういう姿がはっきりしてなければ、評価のしようがないと思うので、この基本目標1から5まで見させていただきましたけれども、基本目標2で言うと、市民が学習しやすい環境を整備する、それをすると何がどうなって一人一人が生涯にわたって学び続けるとか、郷土愛を育むにつながっていくのかというのが、整理がついてないような気がするので、その部分もしっかり整理していただけたら、議論も進むんじゃないかと思います。</p>
議長	<p>私も昔勉強した中で、学校教育というのは、釣り堀の中で魚を釣るのだと。だから魚がどこにいてどういう動きをするのかしっかり見て釣ることができるので、釣り方の技術を覚える。社会教育というのは、海に船を漕ぎ出して行って釣りをするのだ、ということでそこにどんな魚がいるのか、どこにいるのか、どこにどんな危険があるのか、その大きさというのが社会教育なので、そこを細かに見取って評価していくということになると、これはとんでもない作業になるのではないかと思います。</p> <p>ですからその辺りを、どの辺で落として、社会教育、不特定多数の、いわば国民全体の、市民全体の学びをどうやって見取っていけば良いのかについて、貴重なご意見も出ましたので、また知恵を絞っていただきながら、ご意見のある方は書いていただいて、次の案を出していただければと思います。</p> <p>やはり基本は、学校教育は子供の成長というのをしっかり見取っていかないとダメですが、社会教育というのは、自分がどのように成長したかというのが、目標にどうやって進んでいる</p>

	<p>かですから、君の学びは甘いよとか、君の充実とはそれは充実とは言えないよとか、誰にも言えないですよ。ですからその辺りも含めて、行政としてどのように見取っていくのか。</p> <p>本当にすごいところに足を踏み入れたような気がしますが、次回どのようになるのか、楽しみにしながら、みんなで知恵を出し合っていきたいなと思います。</p>
--	---

(3) 令和4年度社会教育関係団体への補助金の交付予定について

議長	令和4年度社会教育関係団体への補助金の交付予定について、事務局から説明を願う。
事務局	(事務局から説明)
議長	何か意見等はあるか。特になければ、事務局には事務を進めていただきたいと思う。

(4) その他

ア 旭川市民文化会館の在り方の検討について

議長	旭川市民文化会館の在り方検討について、事務局から説明してください。
事務局	(資料3に基づき説明)
議長	在り方検討会での進捗状況についての説明でしたが、何か意見等がありますか。
委員	文化会館施設の機能として検討事項に入っているかお伺いしたいのですが、現在、デザインギャラリーの一般利用ができなくなり、市民ギャラリーに一本化となってきています。文化会館にも展示空間があると思いますが、現状は地下に入る感じで、展示物の展示という意味では、搬入・搬出が合理的ではない実態があると思います。この在り方検討会の委員を見ると、演劇や音楽関係の専門家が多いですが、いわゆるファインアート系といった専門家がいるのかどうかと、そういった作品の展示スペースが、新しい文化会館の中でどういう位置付けになるのか教えてください。
文化ホール担当課長	<p>今年度の検討会の会議ですが、機能面の検討となると、ホールの席数や展示室が必要なのか、場所の問題等もあるので、まずは建物の状態として、実際の見学会の際に、搬入口や主催者側の動線といった裏側も含めて全部見ていただき、意見をいただいたところです。</p> <p>2回目の会議では、大規模改修についてということで、大規模改修となると、今の建物の古いところは直る部分があるが、</p>

	<p>例えば展示室の位置が変えられるかという点、なかなかそういった状況ではないと思います。次の会議では、こういうことをしたいがこういう部分が不便であるとか、改修してもこういう感じになるのかといった意見が出るのではないかと考えています。最初から機能面の話をしてしまうと、建替えという形しか方向性が見えないところがあるので、まず現在の状況について、市民の立場でどうなのか、また主催者として使うと考えた場合にどうなのかということで、建替が望ましいのか、それとも大規模改修で対応できるのか、まずその大きな方向性を今年度は決めていきたいと考えており、デザインであるとか展示の関係者を含めていませんが、議論を活発にしたいということもあり、できるだけ少人数での会議開催としているところです。</p>
委員	<p>今日の基本計画の中にも、市民の発表の場というのが懸案事項として含まれていたと思います。</p> <p>ステーションギャラリーは市内の学生展と位置付けてくれています。幅広い趣味の方が皆さん自由に利用できるかという点、そういったオープンなスペースではないと思います。そうすると、市民ギャラリーが1か所というのは、この市民規模で行くと、少し偏っているのかなと感じるので、そこも含めて今後また検討をしていただけたらと思います。</p>
議長	<p>他になければ本日の会議はこれで終了します。</p>

4 その他

5 閉会